# 景観フォーラム

# 巻頭言

夏になると思い出す歌がある。「ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ 今日もみわたすかぎりに 緑の波がうねる 夏の陽ざしの中で ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は ざわわ ざわわ ざわわ あかる 風が通りぬけるだけ むかし海の向こうから いくさがやってきた 夏の陽ざしの中で ざわわ ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は ざわわ ざわわ ざわわ あの日鉄の雨にうたれ 父は死んでいった 夏の陽ざしの中で」

夏の風景を唄った歌詞だが、戦争が行われたという悲劇がある。確かに沖縄戦の映像から、銃弾が嵐の雨のようにばらまかれている。従って、この歌詞は歌詞であると同時に事実でもあった。生きとし生けるものを殲滅する。攻撃する側は、機関銃という機械がやっているので何ら悪気も感ぜられない。「俺はただ任務に従っているだけだ。少々音がうるさいが、ただこのボタンを押しているだけだ。早いとこ小汚いジャップを蹴散らして、キャンプのパーティーに参上したいものだ。」

日本の夏の風物詩の代表格は何といっても花火である。長岡の花火を見に行ったことがある。信濃川沿いに間髪を入れずに次々に華麗な花火と音が交雑する。川面に移った花火。光と硝煙の匂い。しかし、この長岡の市街地は米軍機からの空襲により、1,500 人程の犠牲者を出し、焦土と化したという。日本各地で実施されている花火大会とは、米軍航空機の日本焦土作戦により殆どの都市が壊滅してしまった後の復興のシンボルである。無知な政治家に率いられた国民という名の付く群衆の悲劇が、広島と長崎の原爆投下により 20 万にも上る人々が一瞬の内に生命を絶たれた犠牲者たちの怨念が花火となって立ち昇る。広島そして長崎の悲劇は避けられなかったのか。否、避けられたはずだ。

ウクライナの悲劇は、もしかしたらこれから始まるのかもしれない。悪魔と化したプーチンがいつ原爆のスイッチを押すのか。それだけはさせてはならない。今こそ外交だ。この世界に賢い政治家こそ今望まれるものはない。メフィストフェレスよ!どうか本当の賢者を連れてきておくれ!

NPO 法人日本景観フォーラム理事長 斉藤全彦

#### く日本景観フォーラム 2023 年度年間スケジュール>

\*2023年度とは2023年4月1日⇒2024年3月31日のことです。

#### 2023年

- 4月24日(月) **第1回景観研究会** 総会・第1回理事会(16:00~ オンライン会議)
- 5月30日(火) 第2回景観研究会(16:30~ オンライン会議)
- 6月13日(火)**第1回景観まちあるき**【浦賀】
- 6月20日(火) 第3回景観研究会 於: JICA 研究所 18:00~
- 9月26日(火) 第4回景観研究会(16:30~ オンライン会議)
- 9月28日(木)~29日(金)特別景観視察会:宇都宮市にてLRTと大谷石を見学(宇都宮泊)
- 10月28日(土) 第2回景観まちあるき【上野】
- 11月28日(火) **第5回景観研究会** 於: JICA 研究所 18:00~
- 12月21日(木) 忘年会

### 2024年

- 1月20日(土) 第3回景観まちあるき【熱海】
- 2月20日(火) 第6回景観研究会 於: JICA 研究所 18:00~
- 3月23日(土) 第4回景観まちあるき【両国】
- ■以上のスケジュールは、ご提案ですので随時皆様のご意見を反映してまいります。

# く日本景観フォーラム 2022 年度年間実績>

\*2022 年度とは 2022 年 4 月 1 日⇒2023 年 3 月 31 日のことです。

#### 2022年

4月12日(火)15:00東京都訪問(神宮外苑再開発を問う)

4月19日(火) 16:30 オンライン会議 第1回景観研究会

5月20日(金)第1回景観まちあるき(神宮外苑・表参道)

6月21日(火) 16:30 オンライン会議 第2回景観研究会 第1回理事会

7月26日(火)16:30 オンライン会議 第3回景観研究会

8月20日(土)~21日(日)特別景観視察会(斑尾高原)

8月30日(火)16:30オンライン会議 第4回景観研究会

9月24日(土) 第2回景観まちあるき(王子・駒込界隈)

10月25日(火)16:30オンライン会議第5回景観研究会

11月29日(火)16:30オンライン会議第6回景観研究会

12月3日(土) 第3回景観まちあるき(神保町界隈)

12月27日(火)16:30 オンライン忘年会

#### 2023年

1月21日(土) 第4回 景観まちあるき (茅ヶ崎)

2月21日(火) 16:30 オンライン会議 第7回景観研究会 第2回理事会

3月23日(木) 16:30 オンライン会議 第8回景観研究会



第1回景観まちあるき 浦賀

# 琵琶湖周辺の古刹をめぐる回遊

# 豊村泰彦



三井寺

### ■エピローグ~回遊感覚でぶらぶら歩き

旅行するとき、一か所ではなくいくつかの場所を巡る場合に「ツアー」などと言ったりするが、「回遊」と言ったほうがふさわしいような気がする。最近旅行以外の目的でも地方を巡回する場合「ツアー」とは呼ぶことも少なくないが、純粋な観光であるならば感覚的には「ツアー」よりも「回遊」だろうと思う。ということで、今回は滋賀県の琵琶湖周辺のお寺を巡る旅であるが、回遊感覚でぶらぶら歩きを実行した。目指すお寺は、石山寺、三井寺、比叡山延暦寺の3寺。そのほかにも沿線には魅力的な観光スポットが多く、一つ一つ寄り道していたらきりがないくらいだ。アクセス手段は滋賀県との往復は新幹線だが、現地での回遊手段は、琵琶湖西側の主要な観光地にはほぼつながっているといってよい京阪電鉄の京阪大津線である。

今回の観光目的の一つである滋賀県大津市の石山寺は、京阪石山寺駅から歩いて 10 分というところにある。このお寺が今回の回遊のスタート地点である。



石山寺(東大門)

#### ■石山寺~滋賀県大津市

石山寺は琵琶湖の南端近くに位置し、琵琶湖から流れる瀬田川の右岸にある。寺の本堂は国の天然記念物の珪灰石が重なる巨大な岩盤の上に建ち、これが寺名の由来ともなっている。また、高台に建つ「月見亭」から望む景色は、「石山の秋月」と呼ばれる近江八景の一つとなっている。

石山寺は数多くの文学作品にも登場するが、もっとも有名な話としては石山寺が「源氏物語」のゆかりの地であることだ。石山寺に参籠していた紫式部は中秋の名月に琵琶湖に映る美しい景色を見て感動し、物語を書き始めたと言われている。





石山寺(珪灰石と多宝塔)

石山寺(月見邸)

さて、寺の入り口である東大門をくぐり、参道を 20m ほど進むと料金所がある。その右手の階段を上がる。登りきったところが広場になっていて、左手に本堂。正面には柱状になった巨大な奇岩が折り重なり、そのさらに上方に多宝塔が見える。ここの本堂は見るからに相当古い建物だということはわかる。県内では最古の木造建築で、内陣は平安中期のものだそうだ。

本堂で参拝を済ますと奇岩の脇の階段を上り多宝塔に行く。多宝塔は美しい細微を持った鎌倉期の建築で、鐘楼も大門も鎌倉期である。他にも光堂、月見邸など個性的な堂がいくつも小山の上に配され、しかもそれぞれの建物の間はかなり離れていてとても一つ一つ歩いて回りきれなかった。

石山寺の山門を出て、瀬田川に沿って琵琶湖方面に歩いていくとまもなく石山寺駅に着いた。この駅は京阪電鉄の石山坂本線の停車場で、石山寺駅から坂本比叡山口まで、琵琶湖の西側に沿って走る。住宅街を縫うように蛇行しながら進むスタイルは江ノ島電鉄に似ている。電車は20分足らずでびわ湖浜大津に到着。この駅で京都方面に向かう京津線に接続する。



石山寺(珪灰石と多宝塔)

#### ■三井寺~滋賀県大津市

びわ湖浜大津の次の駅が三井寺駅。ここで下車する。駅の近くには琵琶湖の水を京都に運ぶ水路、琵琶湖疏水が通る。水路は駅のあたりから数百メートルでトンネルに入る。これが第1トンネルで長さが436mある。琵琶湖疏水は、5年に及ぶ難工事の末、1890年に完成した。運び込まれた水は水力発電に利用されたため、新しく工場が立ち、路面電車が走るようになった。

駅から約15分で三井寺の仁王門に着く。三井寺の正式名称は、園城寺で、天台寺門宗の総本山である。境内に 天智、天武、持統の御産湯に用いられたとされる霊泉(井戸)があることから御井寺と称され、後に三井寺と通称さ れるようになったという。長い歴史の中でこの寺は何度も兵火にあい焼失したが、豊臣氏や徳川氏によって再興 され、現在も国宝、重要文化財、名園などの貴重な寺宝を数多く伝えている。



三井寺(金堂)



三井寺(一切経蔵)

まず仁王門をくぐり、階段を上ったところにこのお寺の総本堂である国宝の金堂がある。金堂が建てられたのは 慶長4年(1588年)桃山時代を代表する名建築家が建てたそうだ。そして、金堂から南へ5、6分歩いたところに 観音堂があるが、その途中に経典などを収蔵した一切経蔵という建物があり、堂内を覗くとお経を収めた八角の 回転式輪蔵が見られる。しかもこの林蔵は上に八方向の破風屋根が載ていて、それがたいへん珍しいものだとい

う。観音堂は琵琶湖を見渡せる場所にあり、そばには見晴台、鐘楼、絵馬堂などが観音堂が中心に伽藍を形成していて、独立した寺のようにも見えるが、これも三井寺の一部なのだからその規模の凄さがわかる。

外観的には特徴がないように感じる寺だが、講堂などの建物の規模と数の多さには圧倒される。その中に重要文化財に指定されるほどの仏像も多数あるという。悉く写真に収めたいと思うのだが、入場料を払う寺はたいてい撮影禁止なので、図録や絵葉書で我慢した。



延暦寺(大講堂)

#### ■比叡山延暦寺

3つ目の寺は、日本の仏教の中心といってもよい比叡山延暦寺である。お寺については説明する必要はないと思うが、簡単に概略を説明すると、延暦寺は 788 年最澄が改組した天台宗の総本山で、学問と宗教の修行の場として法然、親鸞など日本仏教の名僧を多数輩出した日本仏教の母山である。そして、その歴史と伝統において、高い評価を受け、ユネスコ世界文化遺産に認定されている。延暦寺は比叡山の山中 1700 ヘクタールの敷地内に点在する約 100 の講堂や仏教施設の総称である。それは甲子園球場 500 個分の広さに相当するそうで、全部見ようと思ったら、1 日では無理である。



延暦寺(東塔)

今回の延暦寺へのアクセスは京阪電鉄石山坂本線で終点坂本比叡山口駅まで行き。そこから約 15 分くらい歩いてケーブル坂本駅に行く。そこからはケーブルカーに 11 分乗り、ケーブル延暦寺駅に行き。さらにそこから山道を 1 キロほど歩いて延暦寺にたどり着く。比叡山はさほど急峻ではなく登山客にも人気があるようだが、千日回峰行などという行があるように修行僧は日々比叡山の峰々を歩き回って修行をしていることを想像すると自分も一度山歩きにチャレンジしたい気もする。







延暦寺(釈迦牟尼仏)

延暦寺は標高 848m の比叡山全域を境内とする寺院で、大きく 3 つのエリアに分かれ、エリア間は観光客用に定期バスが運行されている。東搭(東エリア)は寺の中心で、そこには延暦寺最大の仏堂である根本中道がある。延暦寺の総本堂にあたり、建物は国宝に、廻廊は国重要文化財に指定されている。何回も災害に遭ったが、その都度修復され、しかも復興の度に規模も大きくなっているそうだ。多くの人がその規模に感激してしまうような施設ではあるが、現在は大規模な改修工事(2016 年から 2026 年)が進行していて、美しく威厳のある外観はシートに覆われている。しかし、内部の仏堂は見学可なので。中に入り、ろうそくの明かりに映し出される荘厳な光景を目に焼き付けることができた。

西搭(西エリア)の中心は釈迦堂だ。鬱蒼とした森の中に様々な講堂が点在する。集中してないので伽藍という感じはしないが、幻想的景観は他に類を見ないアート空間だ。もう一つのエリアは横川地域でさらに奥へ入ったところにあるが、今回は省略した。



京阪電車・浜大津駅近く

#### ■エピローグ~京阪電車のこと

最後に今回の古刹を巡る旅でアクセスの柱なった京阪電鉄について紹介する。京阪電鉄は滋賀県と京都、大阪を3府県にまたがる私鉄大手の路線である。そのうち滋賀県の路線は先に紹介した3つの寺院を結ぶ石山坂本線と京都市と滋賀県大津を結ぶ京津線の2系統である。



京阪電車の路線マップ

京津線は西は京都市の御陵駅(みささぎえき)で、その先は京都市営地下鉄東西線と直通運転しており、太秦天神川駅まで乗り入れている。一方のびわ湖浜大津駅では石山坂本線と接続し、これにより、京都市内中心部と大津市内を結ぶ都市間輸送の役割を果たしている。そして、二つの路線が合流する浜大津駅前の道路は、石山坂本線も京津線も軌道をはしる路面電車に変わる。とくに京津線は4両編成の列車にもかかわらず、合流する浜大津駅手前約500mにわたって軌道を走るというたいへん珍しいは光景が見られるのだ。このように、京阪電鉄は大津市で回遊する際の重要なアクセス手段になっていると同時に、それ自体が魅力的な観光スポットにもなっている。

# 浦賀 まちあるき

丹羽讓治

6月13日、11時に京急浦賀駅に集合しました。

浦賀ドックを左に見て、浦賀コミュニティセンター分館(郷土資料館)を目指しました。2階の展示室では、咸臨丸・黒船や奉行所の模型や資料が展示されていて浦賀の歴史を知ることができました。浦賀奉行所の与力・中島三郎助が展示で大きく扱われていました。応接係として黒船に乗船した初めての日本人であり、折衝の任に当たり、その後造船術を学び、軍艦の建造、砲台の築造に関わるなど大きな役割を果たしました。大政奉還を経て、幕臣として函館五稜郭に立て篭もるもご子息ともに死を遂げたそうです。俳句を嗜むなど文武両道の方だったと伝えられています。

次に、昔の町屋が1軒残っていました。かつては連続した町屋が豊かな景観を形成していたと思われます。西叶神社の 社殿は権現造で、1837年に消失し、1842年に再建されました。権現造で本殿に鰹木が棟に載っているのは珍しいと思 います。彫刻師後藤利兵衛による彫刻でも有名です。

川間町内会屋台格納庫があり、叶神社に問い合わせました。9月の叶神社の祭りの山車が納められていて、傘下18町内のうち今年はいくつの山車が出るかわからないとのことでした。以前は、浦賀駅まで巡行してたそうです。

浦賀奉行所跡は、説明板があるだけで整備されてませんでした。1720年に下田から奉行所が移転され、敷地を囲んで 1部江戸時代の石垣が残っていました。石垣は切石で隙間なく積まれていました。郷土資料館で模型を見てるので、再建 して往時の姿を見たいとの思いを強く致しました。

為朝神社は、6月第2土曜日に宵宮祭が行われ、「虎踊り」が奉納されます。この舞は、奉行所が開設された際に下田の 廻船問屋の人々が演じたと伝えられてます。

川間ドッグ(レンガドックの遺構)は、東京石川島造船所会長の渋沢栄一の提案で、建設に着手し、1898年に営業を開始したそうです。遺構の横は、現在ヨットマリーナとして活用され、たくさんのヨットが停泊してました。

渡船場に戻り、奉行所設置まもなく開業されたとする渡船で400円の船賃を払い東岸に渡りました。渡船場の横に旅館「徳田屋」の説明板がありました。江戸時代に創業し、1853年に御用宿となり、多数の武士や文化人が宿泊し、近代日本の形成に大きく寄与したとあります。

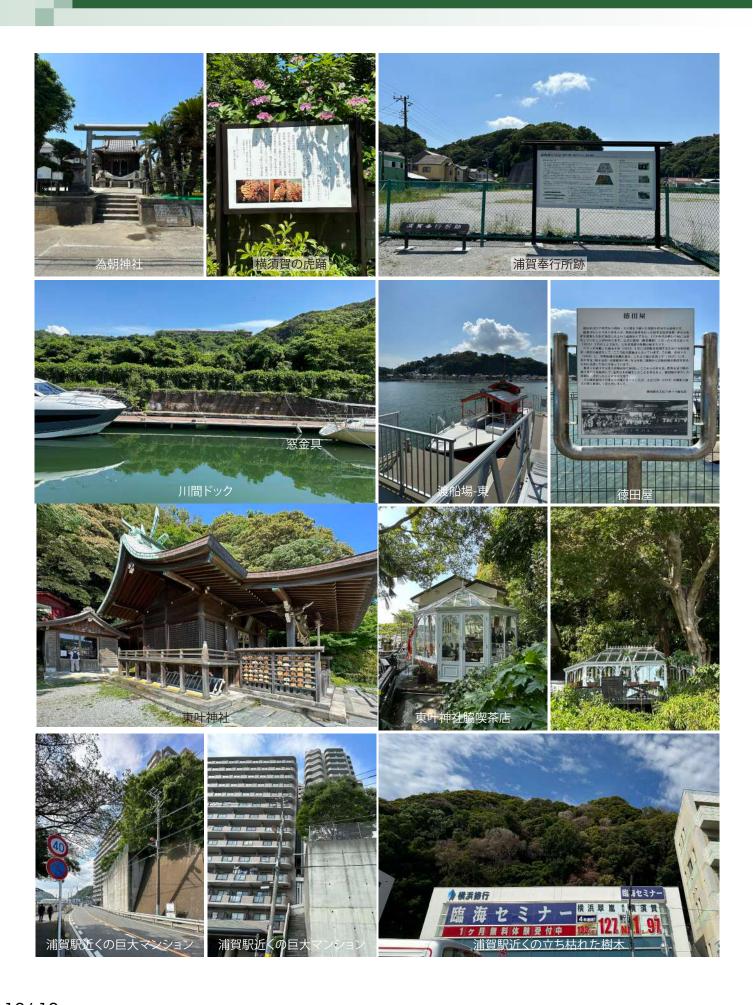
東叶神社拝殿は、神明造りで、勝海舟のゆかりの井戸や勝海舟が断食した伝えられる場所がありました。

東叶神社の脇に喫茶店「サロン・アカンサス」がありました。建物は、イギリス輸入のサンルームで、大きな木の下に建てられてました。夏は日を遮り、冬は光を浴びて、快適であると店主が話してくれました。調度品にも店主のこだわりが伺えました。浦賀駅の近くに巨大なマンションがありました。眺望を得るために景観を壊しているように感じました。海を望む場所にも高いマンショが見受けられました。山の樹木が立ち枯れてました。飛び飛びに枯れた状態を市の公園管理課に問い合わせたところ、私有地との事でした。所有者が対応していることを願います。老人に厳しい快晴の暑い1日でした。









# 40年前のガウディ

丹羽讓治

1982年秋にガウディの建築に会いに行きました。初めての海外旅行だったので、ツアーに参加しました。 当時は、バルセロナがツアーに含まれておらず、ツアーから抜けて1泊してガウディ建築を見て回りました。

勤めていた会社は工業デザイン事務所でしたが、デザイン全般に及んでいて、モダンデザインを志向してました。 対局にあるのものを知りたい。建築は、実際に訪れて体感しないとわかりません。ベルリンにあるミースの「新ナショナルギャラリー」に行った時にその思いを強くしました。まさにモダンデザインで、鉄とガラスの建築です。8本の柱で、梁を支えたプロポーションの綺麗な建物です。中に足を踏み入れると、均質ですが、豊かな空間を感じさせてくれました。装飾は一切ありません。1階ではグリッド天井に電光の文字が一方向に流れるのを長いベンチで仰向けで見ていた時、雷雨に一瞬包まれました。人もまばらで、特別な時間を過ごす事ができました。

訪問したガウディの建築につて

#### ■サグラ・ファミリア教会

工事現場でした。塔の数も少なく、観光客もいませんでした。昼休みでしたが、作業員の方が工事用エレベータに乗せてくれました。塔の螺旋階段の穴で切取られる景色を楽しみながら階段を降りました。地下には、平面図と模型があり、最近の映像で見る色彩と光に満たされた空間ではありませんでしたが、ガウディの息遣いを感じることが出来ました。

東京国立近代美術館で「ガウディとサグラダ・ファミリア展」が9月10日まで開催されてます。ガウディの図面は残念ながら複製ですが、精緻で美しさは伝わってきます。オリジナルではないが逆さ吊り実験も展示されてます。ガウディによる人物彫刻は、モデルを写真に撮って制作するなど、こだわりが随所に伺えます。カタログで「歴史」「自然」「幾何学」による解析がガウディ建築の理解を深めてくれます。逆さ吊り実験を写真に撮り設計に活用していた事も知りました。

#### ■グエル公園

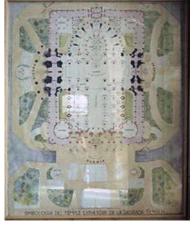
ロザリオの道の植桝を乗せた柱に違和感を覚えましたが、柱廊のポーチに至ると気にならなくなり、徐々に自然との一体感を感じるようになりました。広場を支える柱も美しい。6年をついやジュゼップ・マリア・ジュジョールの広場のベンチも良かった。広場に上がると、5人の小学生に会うくらいで人影もまばらでした。広場からバルセロナを一望できました。

# ■カサ・ミラ、カサ・バトリョ

内外共装飾に溢れていますが嫌味な感じはなく、細部までイメージが統一されているからなのかもしれません。カサ・バトリョは、住人に入れて頂き、吹き抜けの最上階に行くことができました。外壁は黒く煤けていましたが、ガラス天井がかかった吹き抜けの内壁は、青のタイルが綺麗でした。

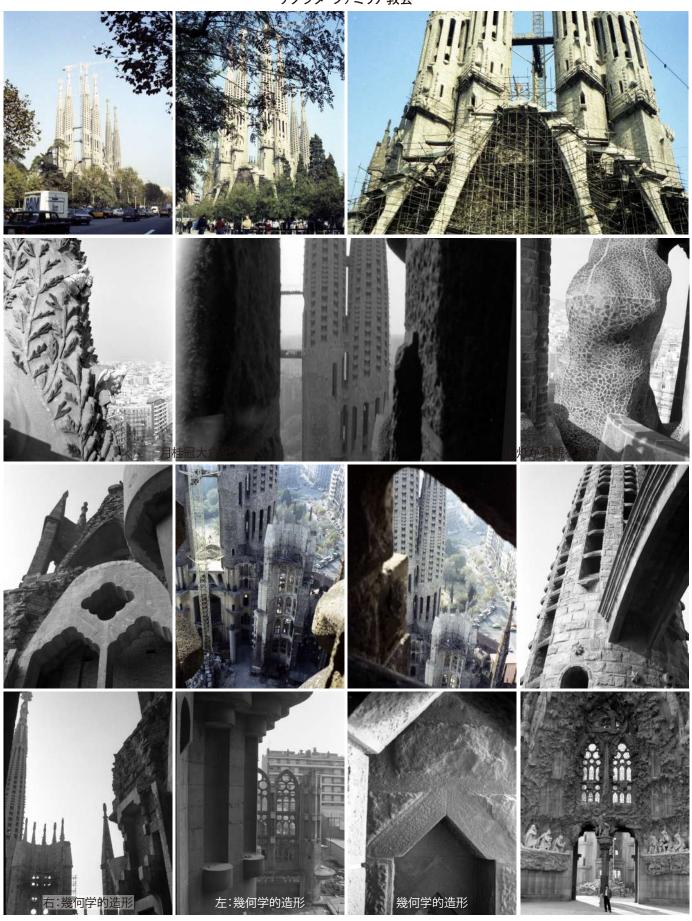
建築に取り組む姿勢は学ばなければなりません。やはり、人間性に惹かれます。ガウディが亡くなった時の話に凝縮されてると思います。鳥居徳敏著「アントニオ・ガウディ」「(鹿島出版会)の最後の章「一他界」に詳しく書かれています。

2026年が没後、100年に当たり完成を目指しているようですが、コロナ禍の影響で難しいとも聞いています。完成したら改めて、サンタ・テレサ学院をはじめ訪問していないガウディ建築を堪能したい。友人の多くがサグラダ・ファミリア教会より良い建築であると推奨するムンタネー設計のサンタ・クレウ病院も訪れたい。

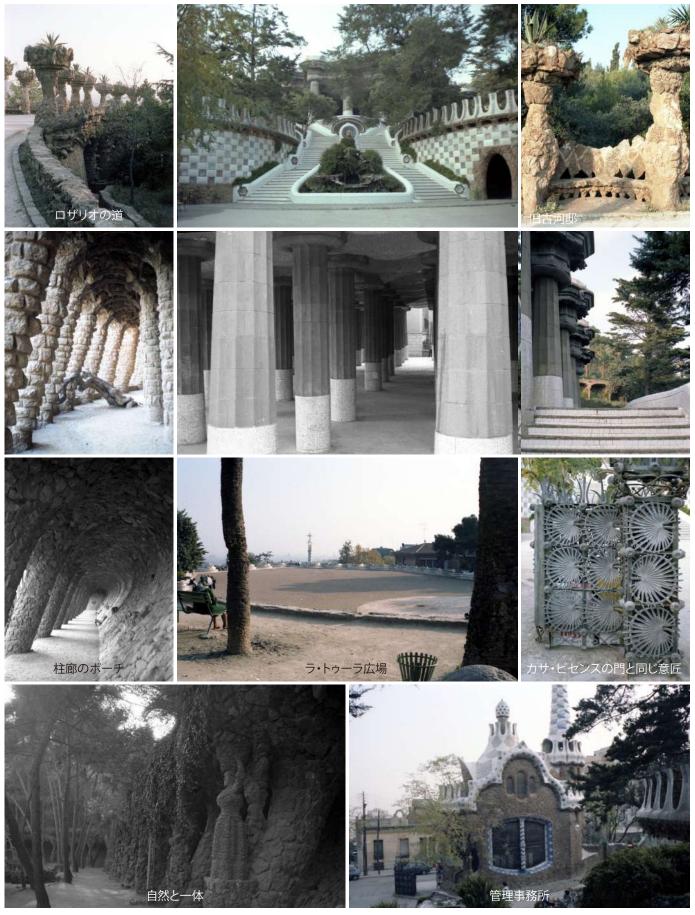




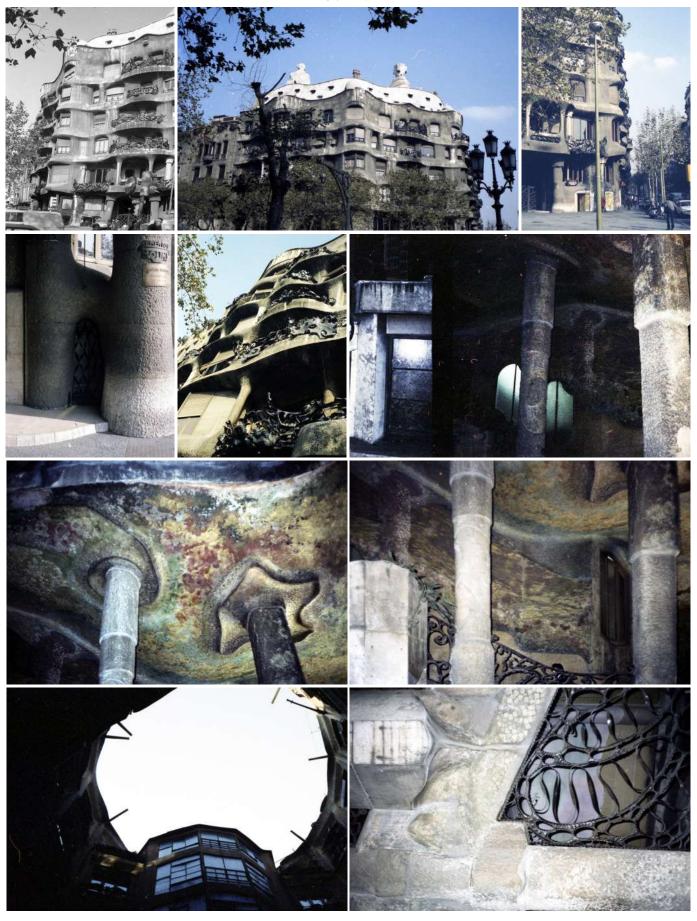
サグラダ・ファミリア教会



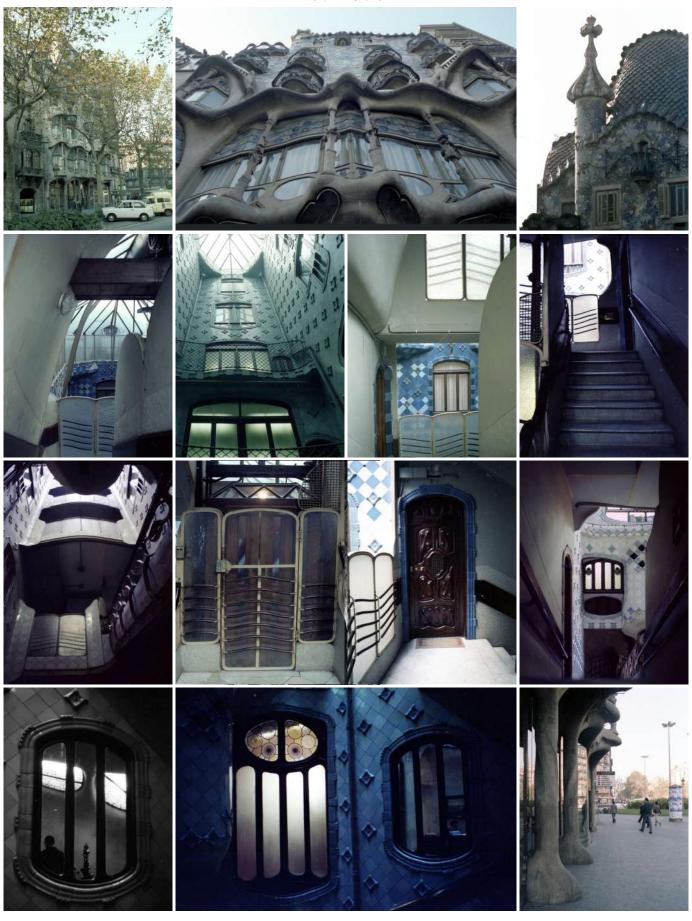
# グエル公園











# **<LFJシネマレビュー 1>**

# 斉藤全彦

■『世界が引き裂かれる時』2023 年 6 月 監督・脚本マリナ・エル・ゴルバチ/100 分/カラー

2022年2月21日に始まったとされるウクライナ・ロシア戦争は実は2014年3月ロシアがクリミアを併合した頃から始まっていた。その年の7月ウクライナの親ロシア派分離主義者が行ったマレーシア航空17便撃墜事件はその流れの中で起きていたことであり、そのミサイルはロシアからの供与されたものである。政治的に国民の考え方が真っ二つに分かれ、凶暴な常識が通じない国家もどきの集団が隣にいると不幸が始まる。まさに、ウクライナという国がそのようである。映画は臨月を向けえた主婦が内戦によって破壊された自宅を何とか修繕しようと夫と共に頑張る姿が見渡す限りの広々とした地平線の中に描かれる。ウクライナの大地はヨーロッパの穀倉地帯の代表的なところであり、戦争がなければ何と豊かな何と生命を育んでくれる神が与えてくれた贈り物そのものであると映像が示している。戦争は人間を虚無的にする。この映画は初めから最後まで、虚無ではない存在そのもの、この豊かな大地の地平線が映し出されている。馬鹿な人間どもが殺し合っていることはこの大地は知っている。最後に妊婦は赤子を生み、大地の中にその鳴き声が響き亘って終わる。

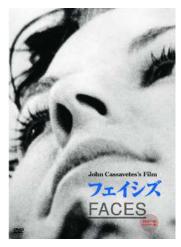


- ★ジョン・カサヴェテス(John Cassavetes1929-1989)監督作品集
- ■『アメリカの影』原題 Shadows 1969 年/アメリカ/82 分/モノクロ映画の舞台はニューヨーク・マンハッタン。そこに暮らす普通の若者たちが生き生きと暮らしている。一人ひとりは貧しくもあり悩ましい暮らしだが、希望はそこにあり、常にそのエネルギーは絶えることがない。夜の場面がほとんどであり、白黒の画面がジャズに伴われて見る者を離さない。白人、黒人そしてその合の子の若い男女がマンハッタンの夜を駆け巡る。善と悪が混ざり合い、夜のとばりはなかなか開けそうにない。ジャズという音楽はこのような世界から出てきたのか、と。



■『フェイシズ』原題 Faces 1968 年/アメリカ/130 分/モノクロ

アメリカ合衆国の平均的な暮らしというものがどういうものであるかは、やはり数年間そこに暮らしてみなければわからないであろう。「関係の破綻した中流アメリカ人夫婦の36時間を描く」ということになっているが、その家庭の中はモノがあふれている。そして、パーティーそしてパーティーの連続だ。話し合いはするが、あまり人の話を聞こうとはしない。場面場面で人はいろいろな顔を示すが、表情があまり豊かではないのだ。豊かな社会に貧困な面々がある。さて豊かな社会はアメリカという国で実現できているやら。



■『こわれゆく女』原題 A woman under the influence1974 年/アメリカ/147 分/カラー

夫婦愛というものは民族や国やまた世代やで、且つまた家庭それぞれで大いに異なる事であろう。世界でもっとも豊かになったアメリカで壊れかけそうになった家庭を描いている。精神を病んで病院から帰ってきた女房をどのように向かえたらいいかと悩んでいる夫がいる。家族は家庭を必要とするのだろう。



## ■『チャイニーズ・ブッキーを殺した男』

原題 The killing of a Chinese bookie 1976 年/米/135 分/カラー

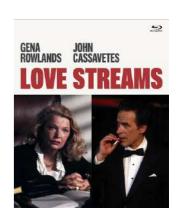
暗黒街のマフィア、ストリッパー、ナイトクラブ、犯罪などを扱ったアメリカ裏側 社会の内幕を示す。画面はほとんどが夜の世界である。夜の景観は光が当てられたと ころが主役となる。暗黒街といわれるだけ夜が主役の社会風俗だ。アメリカという民 主主義の代表格の国はやはり暗黒街を持たざるを得ないのか。民主主義の夜とは何だ ろうか。



■『オープニング・ナイト』原題 Opening night1977 年/アメリカ/144 分/カラー「一人の有名女優を通して人が老いを自覚し始めた時に感じる焦燥や不安を描いた作品」とあるが、アメリカという世界でもっとも豊かな社会が老いてゆく時どうなるのか。そういう視点でこの映画を見た時、映画の中であちこちに現われている金ぴか張りの社会の風景が何か寂しくなるのである。



■『ラヴ・ストリームス』原題 Love streams1984 年/アメリカ/143 分/カラー 愛、孤独、家族というものがカサヴェテス監督の主題であると言われるが、歴史を 持たない急速に豊かになったアメリカという社会で、そういうものが本当に実現できるのかと問いかけているようである。



# くLFJブックレヴュー 80> 『美しきウクライナ』ウクライナ─著岡本朋子訳 2023 年 3 月刊

日経ナショナルジオグラフィック

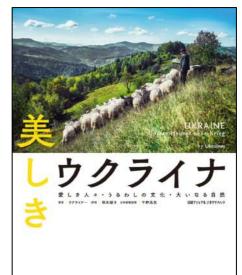
斉藤全彦

このウクライナーという著者とは「世界のため、また自国ウクライナのためにウクライナを調査し、記録するために集まった人々によるボランティア団体」である。創設者でありジャーナリストでもあるボフダン・ロフヴィネンコは「本団体の目的はすべてのウクライナ人が『自分は誰なのか?』『自分はどこから来たのか?』という問いに完結かつ明確に答えられるような現代のウクライナ像を発見することだ」と述べている。

恐らく 2010 年代に入りウクライナはロシアの侵略に晒されてきたので、この団体が創立されたのも、ロシアの力に対抗するかのようにウクライナ人から自然発生したのではないかと想像する。ロシアという国はもともとウクライナという土地から独立するように発生したのにもかかわらず、今や母国たる存在に嚙みついている。が、この現象はこれが初めてではない。何世紀にもわたって同じような侵略を繰り返してきたのがロシア人という蛮族たちであった。残念ながら、この 21 世紀になっても、この蛮行は未だ収まらないらしい。

さて、この『美しきウクライナ』はその名の如くすこぶる美しい写真集である。「カルパチア山脈や黒海の雄大な自然、キーウ大公国から続く伝統、コサックの歴史、昔ながらの生活を守りつつ新しいことに挑戦する人々」が写されている。そして「有名な観光地からあまり知られていない小さな村まで、戦禍が及ぶ前のウクライナをくまなく訪ね、そこに息づく文化・自然・人々の生活を記録したもの」である。ところで、ウクライナという国の面積は日本の約 1.6 倍ほどの大きさを持ち、人口は 4,200 万人というから日本の約 3 分の 1 程度である。自然が豊富にあり、その豊かな自然の中に囲まれるように良き人々が暮らしている。これほどまでに美しい土地をやはりロシアは欲しくなってしまったのだろうか、いや、ロシアではない、美しい女を欲しくなるようにウラジーミル・プーチンが欲しくなったのであろう。この写真集の構成はウクライナという国を東西南北の地域をくまなく写し取るという仕掛けで、先ず「ウクライナ西部では国境が何度も引き直された歴史がある」とし、カルパチア山脈からリヴィウ市などの西部が照会され、次に北部の伝統工芸・守られた自然そして原発被災地などが示され、一足先に戦争(2014 年から続く戦争)が始まった地域として東部が生々しく提示され、そして最後にウクライナらしいという海と川が形づくる南部の風景が見る者の目を離さない。これほどまでの美しい風景ならびに景観はじかに見たくなる対象であり、プーチンが欲しくなるのもうなづける。だと言って、プーチンよ!泥棒行為は厳罰に処す。

このような豊かな自然と文化がある国を破壊するということは何を意味するのであろうか。破壊者は恐らく美というものが信じられないのであろう。彼の心の底にあるものは美しいものがあったなら、それを所有するのは当然であり、所有できなければ破壊することが彼の使命となるのであろう。美は所有の対象であり、観賞するものではない。観賞したければ先ず所有しなければならないというのが彼らの論理であろう。(斉藤全彦)



〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町 14-5-502

TEL: 03(3780)3814 FAX: 03(6379)6681

E-mail: info@keikan-forum.com

URL: https://www.keikan-forum.org

